

第4回 東海村農業振興計画策定委員会会議録

1	開催日時	平成27年5月25日(月) 13時30分から15時30分まで
2	場所	役場行政棟5F 原子力視察研修室
3	出席者	別添委員名簿のとおり(25名)
4	欠席者	佐藤(次)委員, 鈴木委員, 根本(正)委員, 清水委員, 小泉委員, 砂金委員, 堀江委員, 関口委員 8名
5	公開又は非公開の別	公開
6	非公開の理由	
7	議題	(1)策定のスケジュールについて (2)東海村の農業の将来について (3)個別的重点施策について
8	配布資料	別添のとおり
9	発言内容	(1)策定スケジュールについて ・6/14(日)開催予定の「明日の東海村農業の未来を考える」の案内。
		(2)東海村の農業の将来について ・集落営農は以前検討したことがあったが、東海村ではできないということになり、代わりに農業法人を設立した。集落営農を今から進めても無理ではないか。 ・現実的に無理なことも書いてある。 実現性がどのくらいか、将来的にはどうか等がわからない。助成金を踏まえるかどうかでも変わる。 継続的に問題等を検討していかないと何も変わらないことになりかねない。
		(3)個別的重点施策について ・東海村農業は、一番に、農地を守るのか、農業者を 守るのか、農業景観等を守るのか。 ・国や県の施策は自立農業を目指しているが、東海村で考えると、もう一歩踏み込んで実現性のあることを進めるべき。 ・農地保全については、アンケート結果でも39%あるように、農地は個人の財産なので制限すべきでない。 ・先日、近所でサラリーマン農家の夫を亡くした奥さんが、畑を使ってくれる人を捜していた。(農地は保存したいが自分ではできない) 早急な解決策が必要。 ・実現するには時間がかかる。委員会が終わったら振り出しに戻ることが心配。サラリーマン等には、そういう情報(制度・仕組み等)が届いていない。

	・村もやっているが結果に繋がらない。効果的な対策案がないのが現実。 ・統計的に東海村農業の変遷はわかるはず。高齢化、少子化、食生活の変化等、農業環境の変化を踏まえないと、実現可能なものはできない。 ・新規参入者等が来てくれるのを待っている書き方。 農業の魅力等を伝える情報があれば、興味を持つ人も現れるはず。 ・具体的な投資、収益等（経営モデル）の情報があればありがたい。 ・設備込みで新規就農者に引き継ぐ手段があれば、引き継ぎがスムーズにできる。 ・農業を離れるときに、1年間の研修等を経て引き継ぐ。そこをうまく仲介できれば。 ・ポイント制等で住民の意識を高めるなど、東海村産が売れる環境づくりが大事。 地元のものが地元で売れることが一番良いので、元々の地産地消を踏まえた計画にすべき。
10 結 果	・全体的に構成を見直して計画案を作っていきたい。 ・次回の策定委員会は7月上旬。 ・週1回程度、ブラッシュアップしたものを皆さんに示し、意見を頂きながら成案にしてしたい。 ・その間、集落座談会、ワークショップなどで委員以外の意見も頂く。 ・6月14日 10:00～15:00、「にじのなか」の交流広場でワークショップを開催する。総勢30名程度。 是非参加を。